「権威についての問答」　2023年10月19日

イエスはお答えになった。「では、私も一つ尋ねるから、それに答えなさい。ヨハネの洗礼は天からのものだったか、それとも、人からのものだったか。」彼らは相談した。「『天からのものだ』と言えば、『では、なぜヨハネを信じなかったのか』と言うだろう。『人からのものだ』と言えば、民衆はこぞって我々を石で打ち殺すだろう。ヨハネを預言者だと信じ込んでいるのだから。」そこで彼らは、「どこからか、分からない」と答えた。すると、イエスは言われた。「それなら、何の権威でこのようなことをするのか、私も言うまい。」（ルカ20：3～8)

主イエスは、エルサレム神殿の境内で民衆に教え、福音を告げ知らせておられた。神殿当局と緊迫した状況を生み出していたが、いつものように、平然と、神が示された「喜びのおとずれ」を解き明かされていた。そこへ、祭司長たちや律法学者たちが、長老たちと一緒に近づいて来た。彼らは神殿を管理、統括する最も有力な人々である。彼らは主イエスに、「何の権威でこのようなことをするのか。その権威を与えたのは誰か」と問うた。「このようなこと」とは、神殿内で商人たちに、「『私の家は、祈りの家となる。』ところが、あなたがたはそれを強盗の巣にした」と言いながら、暴力的に追い出したことである。神殿当局が管理する所で、一介のラビによって荒らされることは神殿の権威を失墜することで、許せないことであった。民衆は主イエスの言葉と行動に深く賛同していたので、捕えることができないでいた。しかし、彼らは怒り心頭に発し、このままでは収め切れないでいた。そこで、主イエスに何の権威、誰の権威で、あのような狼藉を働いたのかと質したのである。それに対し、主イエスは答えず、「では、私も一つ尋ねるから、それに答えなさい。ヨハネの洗礼は天からのものだったか、人からのものだったか」と、逆に問い返した。イスラエルの宗教議論では、問われた時、直接に答えず、更に、問いを投げ返すことによって、問題を深化させる対話法を用いていた。主イエスは、問いを投げ返す方法を取られた。彼らは、主イエスの問いに答えることができず、相談した。ヨハネの洗礼は「天からのもの」だと言えば、では、なぜヨハネを信じなかったのと言われるだろう。彼らは、ヨハネの神に真っ直ぐな信仰を認めつつも、彼の言葉を信じて従うことをしなかった。ヨハネがヘロデに捕らえられ、投獄された時も、助けようとはせず、無視した。逆に、「人からのものだ」と言えば、民衆はこぞって、我々を石で打ち殺すだろう。民衆はヨハネに最大の敬意を表し、預言者だと信じ込んでいたから、「人からのものだ」と言おうものなら、民衆の怒りを抑えることができないと恐怖に駆られた。「天からのもの」とも「人からのもの」とも答えられず、「どこからか、分からない」と答えるしかなかった。すると主イエスは、「それなら、何の権威でこのようなことをするのか、私も言うまい」と言われた。

この権威についての問答は、人間の作った権威に寄りかかる者は言葉を失うという事態を如実に物語っている。神殿当局の有力者たちは自分たちの作り上げた権威を嵩に、権力を振るっていた。しかし、その権威、権力は何の力も根拠もない。だから、責任ある自分の言葉を持てない。周りに振り回され、ああでもない、こうでもないとあたふたするだけである。主イエスは、彼らの空虚な権威論を打ち壊されたのである。